

【研究課題名】

尿沈渣検査における尿酸アンモニウム結晶の出現背景 —嘔吐・下痢・脱水との関連—

【目的】

尿沈渣検査における尿酸アンモニウム (Ammonium Urate, 以下 AU) 結晶は、これまでアルカリ性尿に出現する結晶とされ、尿路感染症や採尿後時間の経過した古い尿などに認められる臨床的意義の乏しい通常結晶として取り扱われてきました。しかし、近年本邦において、ロタウイルス腸炎などにみられる酸性尿酸アンモニウム結石による腎後性腎不全の報告が散見されるようになり、尿沈渣検査においても酸性の AU 結晶検出の臨床的意義が注目されはじめています。今回、当院検査部で過去 3 年間に報告した AU 結晶と他の結晶との検査値や出現背景を比較することで、あらためて本結晶の臨床的意義を明らかにします。

【対象】

2010 年 1 月から 2012 年 11 月の約 3 年間に当院で尿沈渣検査を実施した患者さんが対象です(泌尿器科を除く)。実際にはその中でも AU 結晶を認めた 15 症例と、比較用に他の 4 種類の結晶成分を認めた各 15 症例ずつ(無作為に抽出)の合わせて 75 症例を対象とします。

【方法・調査内容】

AU 結晶群 (n15) と他群 (n60: 15 件×4 結晶) とで、患者さんの基本情報(性、年齢、原疾患)、検尿などの検体検査値、病態(嘔吐、下痢、脱水の有無)を比較検討します。

- 本研究は過去の患者さんの記録を調査するものであり、この研究による患者さんへの負担はありません。また、本研究に参加することによる患者さんの利益はありません。
- この研究を行うに当たり、対象となる方が費用を負担することはありません。また謝礼もありません。
- この研究に参加することによる患者さんの個人情報漏洩しないよう、情報の管理および保護に十分注意して研究を行います。
- この研究で得られた結果は、学会や医学雑誌に発表されることがあります。このような場合、対象となる方が特定できないようにし、個人情報などプライバシーに関するものが公表されることは一切ありません。
- この調査の対象となる方にご協力いただけるかどうかは自由意志です。お断りになられても、治療などの点においてあなたの不利益になるようなことはありません。

調査の対象となっている方で、この研究への参加を希望されない場合には、2014 年 8 月 31 日までに以下までお知らせください。

2014 年 7 月

金沢医科大学病院中央臨床検査部 研究実施責任者 田中 佳
電話 076-286-3511 (内 5335)